

令和8年2月28日

日立理科クラブ通信



日立理科クラブ

No. 265

「理科室のおじさん」を訪ねて2 日立市立大久保小学校

今回の「理科室のおじさんを訪ねて」は、大久保小学校（佐川和人校長）の千葉 政志（ちば まさし）さんです。

千葉さんは、宮城県登米市の出身です。

小学校の頃は、内気だったそうですが、算数が大好きで夏休みの宿題を初めの三日間で終わりにした記憶があります。今でも数学が好きで、「数独」というパズルを楽しんでいます。

理科クラブに入る前は、日立製作所の大みか工場で、産業分野（鉄鋼・上下水他）の電気関係制御盤の品質保証業務・現地試運転作業などをしていました。仕事の関係で、北は北海道・南は九州、海外にも、韓国やアメリカ合衆国など何か国か長期出張しました。

理科室のおじさんは、3年目です。学校では、「千葉先生」と呼ばれ、親しまれています。実験の準備や後片付けをしています。先生方と連携を取り、日時・実験内容を事前に確認して、準備しています。大久保小学校は学級数も多いので、トレーを使って学年毎・班毎に器材を準備し、千葉さんが出勤していないときでも問題が出ないように心掛けています。また、古くからの実験器材が多く、保管・管理が大変で、整理・整頓を心掛けています。理科室での学習がしやすいように、他の学校のおじさん取り組みを参考に、流しに蓋をかけたリ、実験台を補修したりしたこともあるそうです。

学校では、お孫さんとほぼ同じ年代の児童たちとの触れ合いを楽しんでいます。児童に間違っただけを教えることはできないので、生物など苦手な分野にもチャレンジして、知識を広げているそうです。児童から質問があると調べてから回答することもあるそうです。

工夫しているのは、安全に、楽しく、そして教科書に示す実験の結果が出るようにすることです。そのため、事前に予備実験を行って、確認することを心掛けています。

児童に伝えたいのは、理科実験では、内容により事故・ケガ等が発生する可能性があるため、自分や廻りの人が被害に合わないようお互いに注意しよう、ということです。

最後に、大久保小学校のよさを聞きました。まず、理科に関心のある児童が多いことをあげてくれました。その一例を挙げると、

①令和6年度に茨城県幡谷教育振興基金受賞した。この賞は、理科教育に顕著な成果を収めた学校に授与されるものです。

②毎年、夏休みの自由研究に参加する児童が多数いる。

③本年初めて開催された、茨城県科学の甲子園「キッズ」に参加した。

科学の甲子園キッズでは、今年は、プロペラとゴムを使って進むおもちゃをつくることで、事前に出された課題について、千葉さんも一緒になって工夫し、臨んだそうです。

また、大久保小学校の児童は、全員で清掃を一所懸命にやり、きれいな学校に努めているのもよさだと話してくれました。この日も、児童と先生と一緒に清掃に取り組んでいました。廊下で出会った児童の挨拶も素晴らしかったです。一人一人の心をはぐくんでいるように思いました。

『理科室のおじさん』を訪ねて2』では、3年にわたって、25人のおじさんを訪ねてきました。企業で画期的な仕事をされた方々が、今、学校を応援してくれていることを、あらためて実感しました。



「理科室のおじさん」千葉さん



使いやすくした実験台



トレーに準備



理科室から見えるウサギ小屋